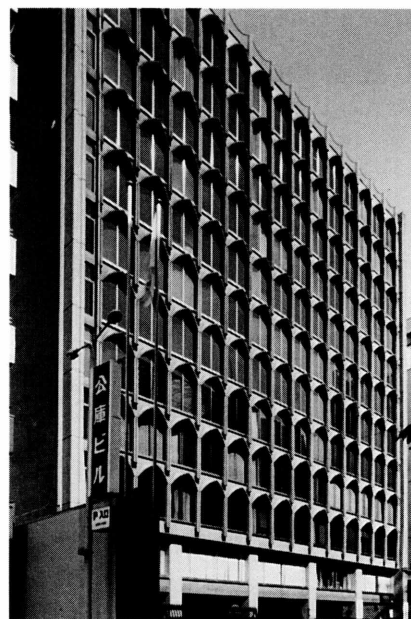


平成 8 年度 B E L C A 賞表彰作品

平成 8 年度 BELCA賞 LLB部門 表彰作品

経団連会館

所 有 者 社団法人 経済団体連合会
設 計 者 株式会社 日建設
施 工 者 清水建設 株式会社
 株式会社 大林組
 鹿島建設 株式会社
 大成建設 株式会社
 株式会社 竹中工務店
 戸田建設 株式会社
管 理 者 社団法人経済団体連合会 事業本部
 東京不動産管理 株式会社
竣 工 1966年10月20日



この建物が建設された時代は、我が国が敗戦から立ち上がり、さらなる躍進をめざしていた時代である。東京オリンピックを契機に高速道路や新幹線が建設され、都心及びその周辺が飛躍的に整備された。そういう中において、建物の高さ制限が撤廃され、容積制へと建築基準法が改正された時代でもある。この建物は、こうした移行期に計画・建設されたホールをもつ会館建築であり、高さ制限からの開放が、計画の自由度を獲得し、それをいかした形となっている。

建物の前面をオープンスペースにして、地下5階、地上18階（65m）としたこの建物は、超高層の先駆けともなった。限られた敷地のなかで車で来館を可能とした計画は、オフィスの立ち並ぶ街区にあって今日の要請に答えている。建設当初、31m規制のビルが立ち並ぶ中に頭が飛び出し、アーチ状の底をもつユニークなファサードは賛否両論あったが、ポストモダンを経験した今日でもその存在感は失われていない。その外装の主体は、アルキャストであり、周辺より飛び出した頭部は耐候性鋼である。両方とも当時としては耐久性が期待できる新しい材料であった。30年経った今日、耐候性鋼の一部に錆が出てきたものの、ファサードを構成しているアルキャストは健在である。底が雨水を受け止める構成が、耐久性を高めているともいえる。

建設当初の施主の要望に応えた設計計画上の「ゆとり」が、この建物の生命力として有効に生かされている。即ち、建築計画上 ①建物の階高が高いこと ②設備のメインシャフトは十分なスペースとして構造コアの外に確保していること ③避難階段を建物の両サイドに十分な広さと折り返しのない一方配置したこと ④構造的には耐震診断が必要ないほど保有体力にゆとりを持たしたことにあるといえる。又、設備の面でも、①受変電・冷温熱源など建物の基幹設備が、増設・改修なしに30年後の今日まで十分機能していること ②照明・衛生・空調等の設備器具が、社会の要求に即応し、随所随所に適切な更新が行われ、会館建築として社会的に十分に高度な水準を維持していることが特筆され、これは設備設計者の負荷予測に対する卓越した洞察力と設備管理者の高度な保守管理技術を証明している。

管理運営の面でも、関連会社・団体を中心に利用率が高く、国際会議も多く催され、VIPの来館も多い中において、事務室と会議場を一つの出入口で行なっていることと不便さも、セキュリティーに配慮しての人的対応で解決していることが、かえって、厳しくなりがちなこの会館の性格を和らげ、人間的な暖かさを醸し出しているといえる。

メンテナンス面についても一貫性があり、建設当初の設計担当者・施工担当者が、今日まで直接かわる体制を整え、長期・中期をはじめとして年頭にメンテナンス計画をたて、①利用率の高い（9：00～21：00稼働、中間期なし）なかで、稼働時間外でのメンテナンス ②非常時のテストを行い、「予防保全」の実施を行なっていることは評価に値する。

この建物がこのように健在で使い続けられている理由として ①地域に根ざした計画 ②ゆとりある設計 ③耐候性のある材料での構成 ④施工面での良い仕事 ⑤丁寧な使い方 ⑥関心をもって見守られることが挙げられ、BELCA賞を受賞するにふさわしい建築と言えるであろう。